



第13回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー



本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開されている関西の先生方にご講演をいただき、製薬、医療機器、診断薬、健康食品、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・医療産業に対するインスピレーションと産業化へのイマジネーションを感じていただくことを目的としています。このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティの醸成と、産官学の対話促進につながるものと期待しています。

本セミナーは、3か月に一度の頻度で開催し、毎回2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題をお聞きいただけます。また、交流会では講師の先生と直接お話しいただけます。皆様のご参加をお待ちしております。

記

日時：2017年9月15日（金） 15:00-18:00

会場：ナレッジキャピタル カンファレンスルーム（B08）
（グランフロント大阪 タワーB 10階）

地図 → <https://www.kc-space.jp/accessmap/conference/>

参加費：無料（交流会：1,000円）

主催：NPO法人 近畿バイオインダストリー振興会議・公益財団法人 都市活力研究所

共催：NPO法人 バイオグリッドセンター関西

後援：大阪医薬品協会

講演 I 15:00-16:00

「人工知能で精神疾患・発達障害を再定義し治療する」

（株）国際電気通信基礎技術研究所・通称ATR、脳情報通信総合研究所 所長 川人光男

精神疾患の診断は症候のみに頼っていましたが、私たちは脳科学と人工知能を融合して、脳の回路を分類する機能的磁気共鳴画像（fMRI）診断法と、診断と組になったfMRIニューロフィードバック治療法XNefを開発しました。基礎神経科学としては、fMRIデコーディッド・ニューロフィードバックDecNefはヒトで使える脳活動から心への因果関係を証明できる実験ツールであり、未来の人工知能技術開発につながると期待できます。

講演Ⅱ 16:00-17:00

「腎臓の「治る」と「治らない」の境界線はどのように決まるのか」

京都大学大学院医学研究科腎臓内科学 教授 柳田素子

腎臓の機能が短期間に急激に低下する病態を Acute kidney injury (AKI) という。AKI は入院患者の3%程度が罹患する高頻度な疾患であり、高齢者の透析導入の8割に AKI が関与するとも言われている。腎臓は AKI から元通りに回復することもあれば、そのまま回復せず、末期腎不全や慢性腎臓病に陥ることもあるが、何がその違いを決定するのか明らかにされていない。

我々は系譜追跡やライブイメージングの手法を用いて、腎臓の「治る」と「治らない」を左右する細胞集団の振る舞いと制御機構を明らかにしたのでここに報告する。

17:00-18:00 交流会・名刺交換会

申込先：参加希望者は2017年9月14日（木）までに、公益財団法人都市活力研究所のWEBサイトからお申込みください。ただし、定員（70名）に達し次第、締め切らせていただきます。

URL：<http://www.urban-ii.or.jp/>

問合先：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-4963-2107（梅村、松村、大嶋）
公益財団法人都市活力研究所 電話：06-6359-1322（味村、安藤）